

(様式2)

2019 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570302214		
法人名	にいがた寿会		
事業所名	グループホーム てらの桜園		
所在地	新潟県上越市板倉区久々野2278番2		
自己評価作成日	令和2年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の中で、四季の楽しみを感じていただきながら、行事や作品作りに参加されている。個々の意見や気持ちを大切に、希望・要望をかなえられるよう、支援をしている。『利用者ファースト』を掲げ利用者優先、利用者本位の介護を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年に廃校となった寺野小学校の再利用について地元住民にアンケートを行った結果、当地区に福祉施設を望む声が多く、それに応じて2006年グループホームてらの桜園が開設された。当地区は豪雪地帯の上、日本有数の地滑り多発地帯でもあり、グループホームが入る鉄骨コンクリート造りの強固な建物は、地域の避難所として指定されている。建物の1階は駐車スペース、2階はグループホーム、3階は教室や理科室がそのまま残っており、4階の体育館も含めて避難所として利用できる構造になっている。

地域住民が事業所の防災訓練や、消防署員による救急救命訓練に参加するなど、防災面を中心に地域とのつながりが深い。また、地域性を考慮した土砂災害の避難訓練も行われるなど、防災面の備えが充実している。

事業所から車で10分程の場所にある母体施設の特別養護老人ホームとは、委員会活動等を通して密接な連携が図られており、様々なバックアップだけでなく、職員が希望する研修に参加できるように応援の職員を派遣するなどのサポート体制もできている。

職員は少しでも利用者を楽しみを持って過ごしてもらいたいと考えており、利用者の気持ちに近づく試みである「ひもときシート」を全利用者に対して実施したり、職員個々が人権擁護に関する自己評価を毎月実施するなど、利用者目線の介護を実践している。

前回までの評価結果を真摯に受け止め、着実に改善を積み重ねている。また、今回の外部評価を受けるにあたり、全職員が自己評価を行って個々のケアを振り返る機会とした。今後も、「利用者ファースト」のケアの実践が大いに期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に業務を行っている。又、理念は職員が共有できるように掲示し自分らしさを職員間で話し合い利用者の立場になって考えケアしている。	現在の理念を具体的に実践するために令和元年7月に、職員全員で話し合っ「利用者ファースト」という目標を作った。さらにその目標を実践するための具体的な行動を定め、日々の業務の中や毎月の職員会議の中で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、また園で行う行事に地域の方にも参加して頂いている。地域のボランティアを招いたり、同校区の小学校の行事に参加し交流を深めている。毎年地域の方との防災訓練を行っている。	地域の方から敷地内の草刈りしてもらったり、除雪を協力してもらったりしている。事業所で行う合唱グループのイベントには、地域の方に鑑賞の参加を呼び掛けたり、消防署員による救急救命訓練の企画をして参加を働きかけたり、近隣の小学校と相互交流を行ったりしている。AEDを設置していることが近隣住民に周知されており、令和2年初頭に救急救命に役立つ事例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流のあった小学校文化祭で認知症の方の劇が発表された。地域の方には行事への参加でご理解ご支援いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っており、園での様子やサービスの実状をお伝えし、委員より意見をいただいております、今後に繋いでいく。	会議は奇数月に定期的開催されている。利用者の生活の様子が分かるように、行事の写真や、事業所独自の広報誌を活用している。運営状況の報告だけでなく、地域の方と合同で行う防災訓練の説明をしたり、事業所内の困り事を相談したりしている。メンバーからは災害後の利用者の安否確認の希望や、地域にも広報誌を配布してほしいなどの意見が上がり、前向きに検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市及び区の担当者とは適宜連携を行っている。問題時は早急に連絡を行い対応してもらっている。	運営推進会議には市役所の担当者が毎回出席しており、事業所の実情を伝えている。地域包括支援センター職員とは、利用者を募集する際や、困難ケースでの連携を行っている。感染症の発生状況や骨折事故等の報告のほか、令和元年7月に管理者が交替したことから、制度上の不明点など適宜連絡を取り指導を仰いでいる。また、冬期間は積雪降雪量を毎朝定期的に報告するなど、豪雪地域ならではの関係性がみられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一法人特養にて人権擁護委員による全体研修を行っている。また、研修を基に業務に活かしている。	令和元年9月に、母体施設で外部講師を招いて、高齢者虐待防止関連法と一体的に研修が行われた。法人内に人権擁護委員会を設置しており、事業所からも委員が選出され、毎月身体拘束が行われていないか検証している。権利擁護のための目標を毎月掲げて「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」以外の行動抑制についても意識付けしており、毎月職員個々が振り返りを行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人特養において全体研修を行い、それを基に業務に活かしている。	身体拘束の廃止と一体的に研修が行われている。認知症の行動心理症状で対応が困難なケースでは、職員が声を掛け合って一旦対応を交代したり、皮膚にアザを発見した時は事故報告書に記載して原因を検証するなど、虐待を未然に防ぐことに努めている。法人全体で12月にストレスチェックを行い、2か月後個々にフィードバックして、必要時には産業医のカウンセリングを受ける体制がある。また、事業所内の問題点や課題を管理者等が抱え込まないように、月2回行われる運営会議で、法人内の上層部に報告・相談する機会がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一法人特養において成年後見人制度について全体研修が行われ、それを基に業務に活かしていけるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時資料に基づき分かりやすい様に補足をしながら不安にならないようご理解、納得を図りつつ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の運営推進会議にてご家族からの意見もあり、今後活かしていけるようにしていく。	法人全体で2年に1回家族にアンケートを実施している。また、毎年12月に家族会を開催し、家族の意見を聞く機会としている。苦情報告書にあがらないような意見でも、面会や電話連絡時に聞いた時は真摯に受け止め、「利用者申送りノート」に内容を記載し、個別に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議を行い、職員の意見交換を行っている。また日々の業務の中で意見や提案があればその都度話し合い改善をしている。	軽微な業務改善や提案については日々改善が行われ、「申送りノート」に結果が反映されている。軽微ではない事柄は、毎月1回母体施設の会議室で行われる職員会議で検討している。会議には母体施設の管理的職員も参加しており、そこであがった要望については直接回答をもらうことができる。また、管理者との個人面談や、2年に1回法人全体で職員に対して実施されるアンケートで職員の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与・昇給の際、評価を適正に行い、その旨を職員に周知意欲向上へつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人内で行う、全体研修に参加、また外部研修に参加しスキルアップや知識・技術の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で知り得た方との交流を活かしサービスの質の向上への取り組みを今後も行っていきたい。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者一人一人と向き合い会話や行動などから情報を収集し関係作りに活かしている。知り得た情報を職員間で共有し安心して生活していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や見学時、契約時に、ご家族がどのような事で困っているのか傾聴し、不安や疑問を軽減できるようアドバイスも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り相談、支援を行い、必要時他施設の紹介または、関係機関や地域包括支援センターと連携し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者同士と職員で協力し作品作りや家事手伝い等をしていただき一人一人のやりがいに繋がる様に支援をしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時にはご家族に協力を得ながら個々のケアを考え支援している。	年末の家族会で、令和元年7月からの日中の職員配置の変更により、家族に受診の協力を丁寧に説明してお願いした。家族が関わりやすいように、外出や外泊の際は介助方法や食事形態をアドバイスしており、逆に、家族からケアのアイデアをもらうこともある。また、必要に応じて介護計画に家族の役割を盛り込むなど、共に本人を支える関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ地域の行事へ参加されている。	親族や友人との交流が途切れないように面会をお願いしたり、贈り物が届いた時にお礼の連絡をしたり、定期的に姉妹と電話で話ができるようにしている。ドライブに行った際は、出身地の近くを通るなど、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に合わせた食席を考え、変更を行っている。孤立しないように職員が間に入り関係が円滑に保つように心がけて支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、同一法人施設へ行かれた方のご家族にお会いし、お話する機会があり、悩みや相談等をお聞きしてる。関係職員へのアドバイス等も行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で希望や意向を把握し対応できるよう努めている。困難な方にはご本人に伝わりやすいような方法でお伝えしている。	日々の何気ない会話や関わりの中で把握した意向は、介護記録や送りノートに記録してケアに活かしている。把握が困難な場合には時間をかけて把握に努め、表情や言動から読み取って本人本位に検討している。帰宅要求等の行動心理症状の裏にある思いを知るために、全利用者に対して「ひもときシート」を使用し、利用者の気持ちに近づく積極的な取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族への情報収集し、共有している。	入居時に居宅介護支援事業所のケアマネージャー等から情報を得て、専用のシート等に記録している。入居後に本人や家族から得た新たな情報はシートに追記をしている。それらの情報を活かして編み物や作品作りなどの活動ができるよう支援したり、ケアに役立てたりしている。	情報収集には「生きがい・趣味・生活歴シート」や、センター方式アセスメントシート、入居時のフェイスシートなどを使用しており、情報が重複したり分散したりしている。職員間で共有しやすく、新人職員でも把握しやすいように、情報がひとつに集約されるようなシートの検討を期待したい。また、情報の追記が日常的にしやすい方法についても検討を望みたい。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態変化に気づけるよう日々の様子観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとのモニタリングを行い、変化があった際随時見直しを行っている。ご家族やご本人にも意向をお聞きしている。	介護計画の原案は、アセスメントを基に計画作成担当者が作成し、職員数名で行われるカンファレンスと、家族・本人の意向を確認した上で、個別で細かい内容の介護計画が作成されている。モニタリングは3か月毎に担当職員が行い、計画作成担当者が確認を行っている。介護計画の見直しは半年毎に行うが、状態変化のあった時や、退院時など随時更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々状態をしっかりと把握し、それに伴った対応を行い、情報発信し共有して共通の対応を行うよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に受診が必要になった際には、ご家族のニーズに合わせた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の支援や地域住民の支援を頂きながら安心安全な生活を日々過ごさせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談し、必要時かかりつけ医へ状態報告をし、受診の支援もしている。その際ご家族の支援も必要な時がある。また、お薬処方だけの時もある。	協力医療機関を主治医としている利用者がほとんどである。事前にファックスで健康状態の報告をした上で月1回の訪問診療を受けており、適切に指示をもらっている。状態に変化があった際は事前にファックスをした上で相談をしている。受診対応は基本的には家族にお願いしているが、普段の健康状態と受診の意図が医師に伝わるよう、書面を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子観察し管理者、リーダー、ケアマネで相談しご家族に報告、相談をしてかかりつけ医と連携して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報収集は行っているが、退院時のカンファが行えるようにしていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設で行えるケアの理解を必要時ご家族と話し合いながら前向きに対応し、その後の支援を行っている。	入居時に、看取りの対応は行っていないことを家族に説明している。介護計画作成のための話し合いの際や、日常生活動作に低下が見られる等の状況変化に応じて住み替えの提案をし、特別養護老人ホームへの入所申し込みのサポートを行うなど、家族の不安が無いように支援を行っている。寝たきり状態となった場合は、母体施設の機械浴槽を利用して入浴したり、吸引機を備えたり、住み替え先が決まるまでの間は最大限の対応を行っている。	事業所の入浴設備が寝たきりの状態に対応していないことから、浴槽への出入りが可能かどうか住み替えへの判断基準の一つとなっているが、住み替えの基準や重度化についてどの程度まで対応できるのか明確に記した文書がない。家族にとって先行きの見えない不安を少しでも払拭できるよう、重度化や終末期の対応の指針の整備を検討することを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年6月頃に消防署員による救命救急(AEDの使用方法を含めた)夜間帯の急変時には近隣職員の駆けつけをお願いしている。	急変時の対応手順やマニュアルは整備されている。また、令和元年6月に地域の方12~13人を交えて消防署員による救命救急訓練を実施したり、同年10月には法人全体で感染症の研修の中で吐物処理を実演で訓練をしたりして実践力を身に付けている。発生した事故は速やかに検証して事故報告書に記録し、再発予防に努めている。	日常的に起こりうる骨折、意識低下、窒息等の初期対応についてのマニュアルが見当たらない。夜間事故が発生した時は、近隣職員が駆けつけることとなっているが、その職員が駆けつけるまでの間の備えとして、マニュアルやそれに準じたものを整備してはどうか。また、AEDが倉庫に置かれているので、実用性を考慮した場所に設置するなど、緊急時の対応についてさらに検討することを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を2回行い、そのうち1回は地域住民に協力して頂いた。その際、消防署員立ち合いの基、色々な救護、避難の方法を学んだ。毎回、注意時事項をお話していただいている。2月に土砂災害時の避難訓練を行った。同法人特養での防災委員会に参加し、情報共有など連携を図っている。	火災や地震、土砂災害のマニュアルが整備されており、緊急連絡網には近隣住民の連絡先も記載されている。令和元年7月に火災の避難訓練を実施し、同年10月には地域住民と共に防災訓練を実施した。板倉区は日本有数の地滑り多発地帯であるため、土砂災害の訓練も令和2年2月に実施した。事業所の建物自体地域の避難場所となっていることもあって、他には見られない地域との協力体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた対応や声掛け、人間関係を考えた席替えを行っている。	法人内に人権擁護委員会を設置しており、権利擁護のための目標を毎月掲げ、利用者の尊厳が守られているか職員個々で毎月振り返りを行っている。利用者の耳に入らないように、ケアの話は事務所ですることを心がけている。事業所の広報誌の写真は、事前に利用者の許可を得た上で掲載している。	記録類は適切に管理されており、プライバシーは守られているが、個人情報保護法について学ぶ機会がない。福祉関係者は、個人情報について知り得る立場にあるので、守秘義務についての意識をより高めるために研修機会を設けることを検討してほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大事にし、会話の中から、意向や訴えを聞き逃さないよう心掛け、複数の選択肢を提案できるよう職員同士話合っている。自己決定がしづらい方へはこちらで提案させて頂き納得していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	園の方針の「利用者ファースト」を大切に日々業務を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方についてはご自分でその日の気分にあった服装をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を見出し手伝いしていただいている。食事に飽きの来ないよう、季節を感じてもらえるよう、旬なものや行事食を提供している。メニューに偏りが無いよう気を付けている。	献立は職員が持ち回りで作成しており、行事食や頂き物などで季節の食材が楽しめるように配慮されている。また、母体施設で開催されるラーメン屋台のイベントや、握り寿司のイベントにも参加して食を楽しめるようにしている。利用者個々の能力と意欲に応じて、利用者は職員と共に準備や食事、片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形態や好きな物は少し多めに盛り付けたり、全体の食事量のバランスを見ながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っているガリステリン使用の方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。本人でパット交換も行って頂いている方もおられるが、必要時パットの確認と交換も行っている。	利用者の排泄状況は毎日記録している。時間での誘導が基本だが、利用者個々の行動のサインを察知して、トイレでの排泄ができるよう支援している。入居後にリハビリパンツから布パンツに変更したり、尿取りパッドを使用しなくても良くなったりなど、排泄状況が改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、おからご飯の取入れや野菜をたくさん取り入れたメニューにしている。水分補給や運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の体調、様子を観て、その方に合わせた入浴方法を行っている。時間帯は午前と午後で行っている。	午前と午後、曜日で入浴順を決めることなく、利用者個々の希望に応じて入浴できるようにしており、羞恥心に配慮して同性介助で対応している。季節感を感じることができるようになり湯にしたり、散歩の際に摘んだヨモギを乾燥させて湯船に浮かべるなど、入浴を楽しめるように工夫をしている。入浴の都度、体調面だけでなく、利用者の気分や会話なども記録している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングでお部屋へ行かれ休まれる。また、休憩時間も安楽な居場所で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ここに服薬支援の形態が違う為、統一した支援を行えるようにお薬ケースに表示している。また、薬の内容も把握できるように袋に貼って周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に塗り絵や作品作りされる方、TVを見られる方、お手伝いされる方等様々な方がおられる。またイベント事やカラオケ、シーツパレー等は皆様参加頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	誕生日やイベント参加で外出されている。また、ご家族と外出、外泊もされている。	事業所は山あいに位置しているため、気軽に遠出はできないが、タケノコ汁の会や、近隣小学校でのイベント、地元の祭り(箕冠祭り、板倉ふれあい祭り)、母体施設で行われるイベントなど、地域内を中心に外出を楽しめるようにしている。また、晴れた日には外でパラソルを広げてお茶を楽しむなど、気分転換を兼ねて日常的に外気に触れるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当園ではお金の管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご兄弟からお電話があった時になるべくご本に代わってお話しいただいている。職員が間に入り話を取り持ったりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温には気をつけて職員同士、声を掛け合い調節を行っている。居心地の良い音楽をかけている。リビングにソファを置き、居やすい場所を提供し活用できている。パーテーションやロールカーテンも使用し視線の配慮もしている。	リビングには利用者と共に作った作品や植物が飾られており、地元産の金魚が泳ぐ水槽が置かれ、温かみのある雰囲気づくりがされている。耳の遠い利用者の近くにスピーカーを設置したり、普段口ずさんでいる歌を参考にBGMを流したり、個々が気分良く過ごせるように配慮している。また、不快に感じられる五感の刺激は少なくするように注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い相性の方を見極め一緒にいられる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居やすいレイアウト、馴染みのある物を置き、ご自分の部屋の認識を持っていただいている。	入居前の自宅訪問時に確認した部屋の中の家具の配置を参考に居室のレイアウトを行っている。居室は全室洋室であるが、希望があれば畳敷にすることも可能である。入居時に大切な人の写真や慣れ親しんだ枕等の愛用品を持ち込んでもらっている。夜間、ホールの照明が気にならないように明りどりに目隠しをするなど、少しでも居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線を考え危険が無いように環境作りをしている。また分からない時にはそっと寄り添って支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				